



13
1278
8



1278
8

朝夷巡嶋記全傳第二編卷之三

東都 曲亭主人編輯



初輯第十五

悪を罰と劔の山麓
善小慶小百田の宿

却説その夜さ。朝夷三郎義秀へ根ぬ莖平小竹典を昇く。劔乃
山麓へと赴く。廿四日の月いづこ生む。多摩鳥夜多。悪棍ホ。志
ことあらん。と。蕉火を把せ。件の小厮。月来日來。熟路。これ
物とも思ふ。郷導を志。宿小義秀。こ。孤。け。その。行。路。これ
え。又。あ。肩。か。劔岳の麓へ。三里。あ。ゆ。久。又。一條。路。經
あり。み。ち。の。難。所。と。も。二。里。み。ち。近。く。い。づ。こ。の。山。より。赴。る。と
と。同。え。と。これ。か。よ。こ。も。六。途。の。峻。岨。を。厭。む。と。迎。え。る。こ。を。よ。う。た。る。と

村田

朝夷巡嶋記全傳第二編卷之三

せいの飲應と鬚を推動し噴むの尾山の主魔平太るべし。そが
 ちるふ列居る。優む劣るぬ暴夷眉太く。面赤きある。月額黒く。脱言三
 ある。眼圓み口大なるあり。鬚ハ虎の如く。鼻ハ狻猊の如く。あく巨盃
 引受と。盃盤狼藉檀小飲食を前する一人が助りく。姐板の端を敲き
 妖よち。靡もや。主とのよそく。又よ羽さう。已ホゆる。又卑る。天寶を
 可懼のほ。郡司莊司の妻より。一ト。愛と。誓とのを嫌へ。かて
 冥府へ嫁り。つぐ。疼目と。よ。と。国房で。痛目さう。が。よ。これ。と。目
 細め。ゆ。共。又。ゆ。び。け。と。靡。け。と。責。る。の。具。則。越。の。赤。熊。太。三。九。二
 中太夷守水六臭水沼太郎と。魔平よ。あ。ぬ。悪。棍。る。に。二。三。三。が。外。小
 八九人。醉。と。縁。類。は。臥。と。あ。と。地。藏。和。讃。小。舞。踏。の。唱。歌。わ。ら。ぬ。と。純。声
 合。と。拍。子。ら。ら。唱。ふ。も。あり。又。魔。平。太。が。後。方。より。妍。き。女。の。子。西。三。人。大

おのる。團扇を。か。と。く。あ。ら。び。を。り。彼。も。と。す。小。畧。と。す。己。と。承。る。と
 後。る。と。夫。姐。板。の。ゆ。と。鬼。女。と。友。鶴。ら。り。現。や。緯。の。為。体。大。江。山
 邊。小。人。を。畧。し。む。の。酒。類。淡。鬼。の。筋。を。か。た。癡。者。か。つ。と。長。秀。自。回。自。答
 ち。早。る。と。あ。か。い。鉄。め。こ。と。と。殺。入。る。と。端。迫。く。と。叔。們。と。と。あ
 易。く。處。女。を。救。ふ。と。難。し。不。意。に。起。り。背。と。と。彼。魔。平。太。を。拉。が。ん。と。く
 處。女。を。救。る。と。呼。ぶ。と。尋。思。し。退。き。て。足。を。背。門。の。と。ふ。赴。け。ら
 庖。福。の。樞。戸。開。く。と。あ。と。か。く。と。進。入。る。と。暗。く。人。氣。は。次。の。房。と。あ
 一。と。射。の。声。高。く。ゆ。の。い。も。た。て。と。支。堂。の。悪。棍。ま。と。十。餘。人。前。後。不。覺。お
 醉。臥。と。反。吐。を。枕。と。と。あ。と。赤。裸。ふ。ら。り。と。あ。と。長。秀。の。こ。ん。か。う。て
 今。は。奴。ホ。を。殺。し。る。と。魔。平。太。ホ。と。と。又。魔。平。太。を。怒。と。た。と。け。奴。等
 覚。と。逃。亡。る。と。と。柱。小。掛。と。と。燈。蓋。の。灯。を。搔。立。て。彼。此。を。と。く。視。る。と



太ホハその首領を奪まてくま久操後まき箭横造く射くとまよやくし
 弓よ引く切て度せと勝る折りあま化箭え義秀のうと組板を推して
 猪囚つ右のうふ飛する箭矢宙不廻て投えせ前不立る水六も頼
 あま打傷ま苦と叫びく弓を捨作るふ休まろ悪棍門ハこの為俸不碎易
 るくさやく組板義秀ハこと噓と組板をうり廻し串き苗る魔平太が死骸り
 共投つと六立並る支黨の悪棍三人打倒さし腦蓋を破り一人ハ即死し二
 人ハ髑髏腕骨うち碎まて生死をまごころかると赤熊太中太逃人とま
 長秀ハ俱利伽羅の大刀引抜て透間ゆるく替く蒐ま悪棍們も板合せ推さ
 龍く移んとそのと死義秀憤然と眼瓜腫じ席を蹴立てマ勢を敵
 心ぬめとせび前不進し赤熊太が首丁と打落し久も刃不觸ると
 幹竹割不砍仆と後ハ閃く沼太郎が刀を中受とめ足を飛くと磯と

蹴る蹴るまく尻居不轉輾起んとま起しゆとま背板楚と踏まえて
 一壓屈と蹶躪ま目子跳出血を吐くゆ足を同換く沼太郎戲水が如く
 死ぶけりるは懲りま二九二の中太撃殺され一六七人の悪棍を將大く
 掛とや掛とと焦燥声よヌ効力を憑む匹夫の勇あ先途と聞らう美
 秀ハやまて怒く瞬間ハ二四人死むるととと砍仆せ中太ホハ逃足踏て
 衆皆齊一砍立ると遠巡のさる程小縁類の縁踏外く象棋倒不儲こと
 仰及落とら義秀ハ血刀席薦めつた立ち大組板を引提て縁類は跳出血き
 るが起人とせし中太をさめ悪棍們が背骨肩腰嫌るく打撃き壓殺を
 類平たの勇力ハ一座の悪棍数ハ盡しと死骸ハ算を茶せるど。當下
 義秀ハ生血は染る組板死骸の上倒し子俱利伽羅の大刀とりあげて
 るハ半死半生る水六ホが首を刎まづふ鮮血を拭ひ刀を中受と鞋小

納之固氣採之宵月のあつをせじく扇たぐ汗を納といひてや残したる奴
 原を結果入といふとこころは危福のくふ赴けける。さる後彼十餘人の支堂へ
 奥より大の音の敬尊を醒てこゝろふと慌忙き戸を推開と出るとまほ小寸
 ころも動後がまじく苛て後より前よりめ瓜搔退とこ推開人と諸を掛
 矢声を出し推とも動とあるがう。と立替て立うらんとく拍擇とつら時
 移との果の衆皆根旁と呆とく戸際と推並び頭を傾けり然又れと
 齊一吻と息をつれ復ふこま怪有るとえり夢とくあふるやと二人が
 いへ皆点跃越後の資長城ぶといふも越路いまま静るまど加賀の富櫃と
 自國成りく他郷の沙汰は違は然るを又竹より軍兵を向く後まこ今る小
 奥るる人声浮音は第一の不審こ又この蔽屋の戸まア六日未より素直
 めくも掛と用とるめが神樂未るる巖戸の如く勢大勢力なるヨヌカ

雄がゆふ及ゆふ第二の不審覺とあぶれたるめと正と多とも現るるが
 虚とこ小籠と不覺ととととの如三方へみる板壁とて毀と出ん
 透ゆる。夢と現るまらふとと念とる。列下き奮闘と突戦
 戦とく噓く苦痛の声雪類を打と逃る足障子みかる血まの音と入
 雨の撲と耳邊近くゆめとてゆめとて立とく又あつててを
 籠りき。檻の獣と異るとぞ世ふせん。さへうらとけり。さ中み小さう死一人
 漸とつらつら。當丁と拍嗚乎慢と疎なり。この戸の終と用とる察
 ころ所外面は物と積とせ置とて入と推開人とさまてて功とく
 時を根せ櫓牙緩とく戸を引放とる。小物とるれとよ。下み
 かろく用とるの必漫るる。とち笑へば皆有理と雷同とて西入戸尻より
 身を掛足を踏掃声を合とく。曳やと引と破と外と共積とせとる。



某遠く上総を去て年来當國に住ひ居りて。さぞ不審おれん。固より
 凡智驚才おれ。陶朱が富と學ぶはあはれ。子貢が貨殖と云く。方ふあはれ。
 越中の父母の國則先祖の本領。壯年の比故郷を離れ。且上総の僑居の
 活業の爲ふ。親族の故國なまじ。判五八則兄が名ゆ。婦負三郷の
 里正。原平家譜第の侍。越中二郎兵衛尉盛嗣。爲六従弟上総
 五郎兵衛忠光。おも。ちか。ど。ち。なる。氏族。おれ。父祖累代の農家。まて。仕
 され。どの名。ゆ。え。も。平家。の。西。海。の。波。に。沈。淪。盛。嗣。忠。光。七。び。よ。け。は。こ。ご。が
 兄弟は。崇。も。た。く。舊。よ。由。く。三。郷。の。長。く。一。と。國。司。の。恩。命。田。園。世。帯
 安堵。て。財。よ。更。の。缺。ね。も。兄。判。五。よ。子。も。な。り。某。も。又。子。と。奉。せ。平。家。世
 ざる。と。あり。し。と。此。忠。光。が。所。縁。よ。就。き。某。上。総。よ。赴。け。木。綿。乾。麴。を。賣。買
 ち。く。八。州。を。て。花。主。と。り。利。潤。年。々。よ。あ。り。と。い。ども。家。よ。不。足。い。ふ。と。も。人。の

子と養ハ。実子生ると俗い。う。で。女。の。子。を。と。り。お。り。う。安。房。の。大。瀧
 淡。江。の。ハ。如。此。の。赤。子。を。あ。ま。そ。が。親。ハ。豊。六。と。貧。れ。も。舊。家。の。
 件。の。女。の。子。を。賄。せ。と。郷。よ。媒。姪。も。た。れ。あ。り。その。人。と。一。三。爺。と。素。より
 相。識。人。な。り。ま。じ。立。地。は。熟。談。し。里。方。の。媒。約。と。一。三。爺。も。對。面。し。て。
 元。曆。元。年。八。月。下。旬。襁。褓。の。中。小。養。女。小。蔓。を。上。総。一。迎。と。り。よ。約。束。お。れ。が
 産。の。親。豊。六。夫。婦。と。交。加。せ。せ。あ。の。ち。僅。よ。三。年。歷。く。文。治。二。年。の。春。比。比
 某。が。兄。稻。向。判。五。八。時。疫。の。病。に。嬰。り。て。鍼。灸。茶。餅。の。効。あ。り。身。あ。り。し。と。の
 日。より。嫂。も。亦。病。が。ひ。て。これ。も。あ。く。な。り。あ。れ。と。故。郷。の。信。實。は。さ。夢。の。は。な。を
 宵。の。ら。の。騒。死。哀。に。悼。む。と。その。甲。斐。を。嫡。家。の。断。絶。の。時。と。い。ひ。し。は。信
 ぞ。ハ。か。く。て。あ。ら。び。た。り。あ。ら。び。上。総。の。羈。旅。の。の。り。お。れ。は。家。産。を。も。め。妻。を。と
 携。速。に。故。郷。へ。還。り。て。兄。が。家。督。を。兼。嗣。た。つ。世。の。通。稱。な。り。と。橋。六。と

更めて。稻向判五となり。親兄ハ及び。里人ハ憎ま。一家もく
繁昌せり。この比ウ。養女小蔓と。友鶴と。鳴えく。堂の珠翳の花と。愛
慈。之。育。隨。心。操。いと。優。く。孝。行。も。大。く。容。止。さ。し。儔。稀。あ。り。少。女
小。あ。り。ゆ。り。つ。つ。く。あ。の。子。と。且。産。の。子。と。欺。く。と。愛。さ。る。は。似。く。心
陝。う。実。の。子。小。も。不。孝。あ。り。養。ひ。子。小。も。至。孝。あ。り。匪。果。人。ノ。罪。ふ。う。と。ん
つ。兒。く。の。雲。時。も。ゆ。ほ。也。竊。し。妻。と。う。ち。相。譚。ひ。女。思。と。召。て。云。云。と。説。涕。せ。し。ハ
渠。が。年。十。三。の。秋。な。り。友。鶴。ハ。養。女。あ。り。を。知。り。て。う。ち。驚。さ。且。愧
し。つ。ち。も。ち。あ。り。よ。し。親。の。恩。む。ら。り。を。喻。る。小。物。信。ね。ど。且。死。て。強。祿。の。中。に。て。
養。ひ。と。ら。れ。せ。り。ま。ろ。う。が。為。小。産。の。母。実。の。父。は。弥。ま。り。て。お。ん。慈。と。ぬ。え。れ。ば。
只。いつ。ま。で。も。血。を。ま。け。め。父。母。と。を。お。ひ。ま。れ。と。ふ。も。か。ゆ。も。二。韃。の。隔。ハ。絶。て
侍。ら。ぬ。り。雖。然。垂。乳。母。の。その。胎。肉。を。十月。が。間。苦。め。う。り。及。産。の。恩。あ。ら。ま。り。

あ。ぬ。倫。ひ。よ。侍。り。生。涯。あ。ら。ま。り。れ。ど。か。の。二。親。も。恙。な。く。百。歳。ま。で
り。願。言。の。一。つ。殖。つ。舊。里。の。そ。う。西。や。東。や。あ。ら。ね。ば。を。あ。ま。り
な。つ。と。と。あ。ら。ま。り。向。く。音。な。く。も。甲。斐。あ。ら。ま。り。ま。侍。り。め。り。と。ぞ。う。う。答。て
その。ち。ハ。安。房。の。安。文。字。も。ひ。び。き。孝。行。一。つ。不。真。成。よ。ま。隔。ら。ま。り
せ。え。ど。この。比。よ。り。て。友。鶴。ハ。地。藏。尊。寺。の。本。尊。を。殊。き。う。信。じ。ま。り。毎。日
讀。經。怠。ら。ず。祈。願。の。筋。を。告。げ。も。存。亡。や。も。定。う。な。ら。ぬ。産。の。親。ハ。二。世
安。樂。養。父。母。の。為。と。ま。り。この。大。願。を。獲。せ。し。な。ら。ん。と。あ。ら。ま。り。憑。り。て。親
を。づ。り。た。孝。女。と。ま。り。この。大。功。徳。空。く。う。祐。バ。去。歳。の。秋。一。三。命。が。お。か。さ。り
あ。り。舊。里。の。り。詳。よ。せ。え。豊。六。夫。婦。の。死。去。道。世。和。君。が。孝。行。復。讐。の。
その。顛。末。を。今。も。う。ご。と。く。あ。ら。ま。り。よく。知。り。て。お。か。さ。り。和。君。と。母。の
従。方。い。ら。ぬ。と。想。像。ゆ。友。鶴。が。心。の。裏。に。量。り。て。痛。ま。り。く。ぞ。う。く

妻といひ出く。淵しる日もいひた。と蕭々物づれば。判五が妻。鼻
 うわぐ。孝子孝女の誠を。神佛憐れ。と。去歳の秋は。ゆりなく。
 一三爺は環會。又の秋は。くも。朝夷ぬ。資を借ふ。かま。母は尼
 御前の所在も。あやう。な。つ。や。友鶴よ。改め。朝夷ぬ。小物
 おう。さ。び。や。ち。歎。れ。と。く。と。凍。れ。つ。頭。を。奉。て。懐。紙。の。目。を。拭。ひ。
 膝。ま。さ。り。日。の。ま。け。な。き。に。その。面。影。ハ。夢。ま。も。あ。る。や。と。た。親。お。孝。行
 盡しぬ。せ。その。方。さ。ぬ。と。さ。く。う。い。どう。も。直。さ。産。の。母。実。の。父。面。さ。う。
 窓。ま。あ。ち。し。て。先。さ。め。の。涙。は。ほ。も。鄙。の。田。舎。の。び。せ。く。も。あ。や。い。つ
 ま。で。も。この。妙。は。足。休。ま。り。て。舊。里。の。面。あ。方。の。物。さ。う。を。せ。せ。ぬ。秋。の
 夜。を。長。し。も。せ。明。あ。ん。只。願。い。た。の。ま。は。と。い。ひ。あ。ん。ば。又。伏。沈。ぬ。
 一三呵。と。ち。笑。ひ。か。る。め。で。た。会。筵。よ。う。や。酒。を。ば。ほ。せ。も。涙。を。ほ。り。て

何よせん。阿三どの。の。去年。の。夏。より。一。年。あ。ま。りの。旅。宿。ハ。何。物。落。あ。ん
 べい。が。それ。ハ。又。翌。も。さ。あ。ん。愁。を。掃。玉。帚。あ。ぢ。盃。を。と。効。ま。判。五。妻。の
 ほと。う。に。お。ま。り。て。酒。や。う。ち。相。譚。ひ。て。笑。つ。一。三。よ。う。ち。對。ひ。今。友。鶴。が
 い。い。り。を。和。殿。ハ。何。と。さ。ち。や。ん。某。夫。婦。も。亦。女。児。と。お。か。り。ま。あ。願。望
 あ。う。和。殿。ハ。固。より。朝。夷。ぬ。と。志。を。も。知。り。あ。れ。ら。大。く。な。う。ぬ。縁。者
 な。ま。ば。提。擲。く。さ。び。て。ん。や。と。い。れ。く。一。三。頭。を。傾。け。莞。尔。と。笑。て。鳴。じ。
 僕。既。は。猜。し。う。ち。ん。が。女。塔。を。擇。ま。あ。よ。の。ま。で。あ。ら。は。稱。ふ。の。な。り。
 こ。の。み。お。あ。ら。さ。る。や。と。問。ま。て。夫。婦。ハ。笑。片。向。さ。そ。ハ。な。れ。は。友。鶴。も
 彼。人。を。あ。く。小。留。ん。と。願。へ。ま。く。れ。渠。は。向。で。も。あ。ぶ。し。あ。れ。と。朝。夷
 何。よ。が。世。帯。ハ。不。足。あ。ん。ハ。あ。く。女。塔。は。招。る。な。ら。む。と。も。迺。女。児。を。妻。し。て。
 葎。迹。あ。し。時。あ。ら。ば。送。り。遣。ら。ん。と。あ。よ。の。媒。婚。し。て。あ。ひ。他。支。た。く。い。六

和^わ田^た殿^のの^おん^こ子^こと^はひも^もか^かけ^けを^を鳴^な乎^乎あ^ある^る婚^{こん}縁^{えん}慚^{ざん}愧^き堪^たん^ん現^{げん}俱^く利^り迦^ぢ羅^らの
 一^い刀^{たう}八^{はつ}向^{かう}ひ^ひも^も由^ゆ来^{らい}歴^{れき}く^くる^る名^な家^けの^の子^こ孫^{そん}と^とま^まく^くと^と死^しひ^ひも^も己^{おのれ}が^が死^しひ^ひも
 あり。願^{ねが}ひ^ひ女^{むすめ}兒^こ友^{とも}鶴^{つる}を^を産^うま^まへ^へと^とも^も側^{そば}室^{むろ}と^とし^して^てお^おん^ん子^こを^を産^うま^まへ^へと^とも^も某^{たれ}が^が
 嫡^{ちやく}孫^{そん}と^とし^して^て家^{いへ}を^を嗣^{つが}せ^せん^ん某^{たれ}今^{いま}茲^{こゝ}五^ご十^{じゆ}六^{ろく}歳^{さい}頭^づハ^ハ既^{さい}白^{はく}く^くお^おれ^れが^が筋^{すぢ}骨^{こつこつ}の
 ち^ちほ^ほ健^{すこ}之^の幸^{さい}小^{せう}一^{いつ}上^{じやう}壽^{じゆ}を^をた^たも^もと^と孫^{まご}が^が生^{おひ}育^ひえ^えん^んや^やか^かの^の知^ちく^くあ^ある^るに^に
 和^わ君^{きみ}は^は妻^{つま}な^なく^く側^{そば}室^{むろ}あ^あり^り子^こあ^あり^りと^とい^いふ^ふも^もな^なら^らが^が如^{ごと}し^しか^かく^くて^てあ^あり^りけ^けり
 む^むい^いぢ^ぢと^と辞^{こと}を^を盡^{つく}せ^せば^ば妻^{つま}も^も又^{また}繰^く返^{かへ}し^し復^{また}々^{また}々^{また}一^{いつ}三^{さん}共^{とも}侶^{りよ}口^{くち}説^{せつ}は^はり
 義^ぎ秀^{しゆ}も^もぞ^ぞ嘆^{なげ}息^{いき}し^しお^おハ^ハ郡^{ぐん}を^を婦^ね負^ひと^とい^いふ^ふ婦^ね負^ひハ^ハ則^{すなは}ち^ち婦^ね女^{によ}具^ぐ負^ひ之^の妻^{つま}ふ
 ろ^ろと^と義^ぎ秀^{しゆ}が^があ^ある^るよ^よ脱^{のが}れ^れぬ^ぬ名^な詮^{せん}自^じ性^{じやう}狄^{てき}子^この^のあ^あり^りな^なり^り人^{ひと}力^{りき}の^のよ^よく^くも^も
 所^{ところ}あ^ある^るよ^よ未^まお^おほ^ほつ^つら^らな^な縁^{えん}一^{いつ}な^なれ^れが^がも^もか^かく^くま^まで^でい^いふ^ふを^を推^い辞^ひひ
 人^{ひと}の^の情^{じやう}あ^あら^らじ^じと^とい^い某^{たれ}下^げ野^のの^の足^{あし}利^りは^は旅^{りよ}宿^{じやく}せ^せ日^ひ信^{まこと}あ^ある^る友^{とも}二^{ふた}人^{にん}を^をほ^ほす^す別^{わか}れ^れ

と^と紀^きよ^よ来^{らい}春^{しゆん}い^いの^の紀^きと^と問^とん^んと^と約^{やく}束^{そく}せ^せ又^{また}その^{その}里^{さと}を^を過^よじ^じり^り亦^{また}彼^{かの}友^{とも}の
 紹^{せう}介^{けい}也^や加^か賀^か國^{こく}石^い川^{せん}郡^{ぐん}小^{せう}松^{まつ}の^の郷^{きやう}あ^ある^る莊^{せう}官^{くわん}が^が子^こよ^よ佐^さ味^み内^{うち}高^{かう}利^りと^とい^い
 此^{こゝ}の^の家^{いへ}と^とあ^あら^らじ^じと^とせ^せん^んあ^あら^らじ^じか^かて^て今^{いま}幸^{さい}よ^よあ^あら^らじ^じ縁^{えん}者^{しや}の^の資^しを^をほ^ほれ^れ佐^さ味^みを^を
 憑^{たも}む^む及^{およ}び^びひ^ひも^も彼^{かの}友^{とも}の^の對^{たい}面^{めん}一^{いつ}云^い云^いと^と佐^さ味^みよ^よ告^つげ^げは^はれ^れ一^{いつ}言^{ごん}の
 約^{やく}よ^よ背^{そむ}ひ^ひて^て友^{とも}よ^よ信^{まこと}を^を失^しは^はり^りか^かも^もバ^バク^ク一^{いつ}く^くら^らい^い如^{ごと}し^しの^の如^{ごと}し^しも^もあ^あら^らじ^じとい^いハ
 判^{はん}五^ご々^々あ^あら^らじ^じ春^{はる}も^もな^なら^らず^ず下^あ野^のへ^へ赴^{おもむ}け^けた^たあ^あら^らじ^じも^も妨^{さまた}げ^げな^なら^らず^ず但^{ただ}彼^{かの}加^か賀^かの^の子^こ内^{うち}ハ
 今^{いま}小^{せう}松^{まつ}の^の郷^{きやう}よ^よを^をも^も彼^{かの}人^{ひと}蹴^く鞠^{きよく}と^とま^ます^すと^と京^{きやう}鎌^{けん}倉^{くら}を^をま^まを^を入^い新^{しん}将^{しやう}軍^{ぐん}頼^{らい}家^け
 近^{ちか}属^{じゆく}蹴^く鞠^{きよく}と^と好^{この}ま^まを^をま^ます^すハ^ハ件^{けん}の^の佐^さ味^み内^{うち}を^を鎌^{けん}倉^{くら}へ^へ召^まよ^よう^うて^て近^{ちか}習^{じゆく}の^の後^{あと}か^から^ら
 又^{また}内^{うち}が^が親^{おや}莊^{せう}官^{くわん}ハ^ハ今^{いま}年^{ねん}の^の夏^{なつ}頭^づ死^して^て任^おか^かひ^ひの^の職^{しやく}を^を嗣^{つが}ぬ^ぬ彼^{かの}友^{とも}の^の赴^{おもむ}け^けた^た
 その^{その}益^{えき}あ^あら^らじ^じた^たと^とな^なら^らね^ねが^がも^も遠^{とほ}く^くも^もあ^あら^らじ^じぬ^ぬ地^ち方^{ほう}あ^ある^る遊^あ歴^{れき}の^の為^{ため}に^にハ^ハ赴^{おもむ}け^け
 め^めも^も可^よ内^{うち}ハ^ハ逢^あは^はい^いと^とい^いて^て義^ぎ秀^{しゆ}も^も致^{いた}す^すた^たも^もあ^あら^らじ^じと^とい^いて^て彼^{かの}人^{ひと}を^を

心あてよ小松の白六進退究るじし舊識縁者とあは逢ひしかもくも
幸ひさしき借一歩のこしてはひと死なれ所あり疑ふはひもその人の
宿所ともえむとあひ共死ハ紹介の書状ある故之急ぐ死とわね
らち捨てはお死がじとつ判五ハ感嘆一宅は和君ハ信義は篤し辛のこ
一を以某共侶は加賀は赴死一ツ小内が宿所業内一ツ小富樫殿へ
兇賊退治の趣を折々首級実檢小使あへ折和君ハ介殿富樫は對面して
勇敢武略の為体且和田殿の執子なるよし明地は告なぐ穉鎌倉小
上達して召出さるゝなりと更踵を旋むるもこの後ハいと真づく
向ハ美秀頭をうち掉すや烏合の山賊們十人廿人撃つるも功名を
まらよ足らぬかぞうりの小事をぞ思賞を乞ひ帰糸をねがは愧る
所へ美秀が為をあひぬる魔平太が首級を富樫へ送らぬこの

披露をゆた時たら功と名とおのづから頭を君父に見せ目わん
慙よ素姓をあらけて親と辱をあらは信と恨をまうるを辭儀く
禁ハ判五ハさうなり一三ハ願うらわりの嘆賞吾們草野の細人
なまバ絶て勇士の本意を知れども中のかくもの随ふその意ハ情
とば友鶴がうけりけり又他支もたなく賸話ハ美秀ややく
点隙く目今示あうせ一如一所不住の塔とあり結を縁なつ
推辞ハ辭もいば退けて息女中のかこのあらをゆきけを早持
ゆをあげ八丈夫の一言ハ駟も及ぬものを某おいて変改をど諭し
うハ衆皆大に飲びく壽を述更ハ盃を巡じつその囑音ハ席を巻死
稍盃盤を納めたり園宅食疲勞よるまバ甲夜より中寝つ淀津猪谷
加賀澤ハ豫く穉の趣を知らせる却説次日彼三卿の里木別五が

龍宮九月の節供を豊に迎て。稻扱納り里々より暇を記時なれども。
 秀秀はなほともあらず。閑暇はほしく倦果つ佐味が宿所をなめて
 見むやと豫て之びらよりと友鶴を告あてて行装をなせし。
 判五八のさうち微笑を佐味がみはとまれかかも。彼地は控歴を
 後者而三人まゐる。一彼根介莖平ハ扱はあろ。ゆゑ之彼を
 おて赴たると。叮嚀をまわねども。秀秀つやく従へ。従者ありてハ心
 苦しく煩したる。途果敢とて。今出来秋の最中にて一夫も當千の
 折あるよ。まよはむ用の人を勞して。又何ふらさるより。あん佐味が宿所
 なれり。ハ豫てある所。但紹介せし。吉見冠者は再会の折如此こと
 正しく告んるなま。幾日もあらず。還て来なると。隨はせし。旅こそ
 よし。と。けも引徳がある。夫婦ハ諫めてきて止つ。後よ。秀秀ハ

結旦啓行して。加北の小松に赴く。假深の旅なま。緩歩道遙して。
 途をのぞく。岩神を告し。第三日の亭午の比。佐味は肉が宿所よ
 り。果て判五が後。後を違はせ。肉ハ柳營を召出され。
 鎌倉あり。かくて今の莊官。河北郡富樫より来り。いまだ下野に相識人
 あることを。佐味は肉は所要あり。鎌倉に赴たるといふ。あまよ。秀秀ハ紹介の
 書を出さ。姓名を告して。やがて其れを立去り。豫て期するところ。このあまよ
 立之ん。あまよ。真の當国ハ能美の温泉。又江沼の山中。温泉ハあれ。既に
 秀秋の中。漸小して。その時。後を。又石川郡白山は相並びて。地獄岳あり。山中に
 血の池。油の池。藍屋の池あり。又妙法山大。巴貴劍岳あり。まて。越中立山あり。地獄
 谷と異なり。奥の出羽。羽黒山中。亦地獄あり。といふ。皆是浮屠の方便にて。
 深山大澤。嶮岨の地。ハ行人恐怖せざるべからず。ありて。まよ。冥府を擬し。



と 腰 義 羅 俱
観 の 秀 山 利
る 怪 濁 よ 伽

朝 東 二 編 卷 三

14

後人蛇足附会して三十六地獄の名を負し。愚者婦人と感懲して錢を
召の四とを地獄の制度も金と云ふ。鄙詰はたやとせり。このてまも
えを。費用の旅日を費して。妻子小物をたせん。あつぬ所を。と有敷
あひくせりの。かつるさや。途をうえて。越中國礪波郡俱利伽羅山と
過る。なごの地。加越の封疆。かして。ぬる。壽永二年五月十日。日本曾冠者
美仲朝臣平家の大軍。うち捷て。数万騎を黑坂の南谷追落し。積敵將
知度為盛貞康。おと素心。替とる。地方なる。嶺。一字の道場あり。昔
越の大徳の山。よこけ登る。千歳瀧。身を撲して。俱利伽羅明王の
秘法を行ひ。ひひ。瀧より。神龍。あつ。い。く。大徳を守護。せり。そ。い。け。て
この山を。俱利伽羅嶽といふ。松水。小夫部。柳原。笠野。富田。竹小橋。
みか。の。山。は。相並る。源平當時の戦場あり。美秀。この。岑。を。踏。る。日。ハ

暮。あ。ん。じ。て。風。膚。を。犯。し。道。を。遠。し。て。人。既。疲。れ。り。直。下。せ。深。谷。地。を
帯。て。燐。火。青。苔。の。巖。に。閃。光。向。上。し。高。嶺。天。を。横。り。て。遊。魂。暮。雲。の
中。に。呻。離。る。路。傍。の。草。花。紅。く。て。戦。死。の。鮮。血。は。深。く。る。ごとく。
墨。く。る。谷。陰。の。白。骨。半。朽。く。老。松。怪。松。を。肥。せ。替。も。あ。つ。あ。つ。磯。の
浪。な。ご。碎。く。後。名。の。あ。る。亡。父。の。智。界。一。世。の。英雄。の。俱。利。伽。羅。の。嶽
よ。の。高。に。勲。績。今。あ。よ。迹。認。ゆる。古。戦。の。分。野。榮。枯。得。失。一。叢。の。烟。と
あ。い。と。墓。を。哀。う。か。と。む。と。う。ご。ら。て。ゆ。死。の。い。や。に。谷。底。を。直。下。し。て。立。在。む
折。々。忽。地。夕。霧。立。こ。り。て。其。処。も。も。ぬ。谷。の中。より。数。萬。騎。の。関。此。声。
曳。と。咄。と。復。動。して。具。鉦。の。音。馬。鑣。の。音。矢。叫。び。太。刀。響。凄。しく。彷彿
ら。て。合。戦。の。場。ま。ご。の。身。を。置。て。毛。骨。の。あ。つ。を。あ。れ。も。美。秀。の。海
立。も。去。ら。ぬ。颯。詰。る。折。し。も。れ。颯。と。吹。揚。る。風。と。共。に。宵。の。あ。つ。く。飛。鳥。の。此

あり。拂ひのあむ合ふとあり。んむび人の體體なり。嗚乎たつりのよと取あはして。
 そぐま谷(捨ん)とまきば後のこま声あり。三郎ぬりくと西三声喚ひけり。
 こが名をある。ハ什麼誰也と問あむを信とんくまむ。五尺あま地と去はく。
 直躬と立る武者一騎白地の錦の鎧直垂は白精好の奴袴を張せ。白糸
 威の鎧穿て。白星の堯と戴た廿四差る白羽の矢と。苦高は負みん。
 白木の弓と小腋は握く。白馬は白鞍置て水色の厚總と掛さふうち騎
 々。現との率の為体。この陽人もんえまむ。美秀ハ又問答せ。問近く
 みる。切をうんと刀の鞘はまをうけり。疾視あむを立うる。

朝夷巡嶋記全傳第二編卷之三終

朝

夷巡嶋記全傳第二編卷之三終

美秀ハ又問答せ。問近く

みる。切をうんと刀の鞘はまをうけり。疾視あむを立うる。

